

いてふ

ICHO No39 2020 8



Hofu Institute of Gastroenterology

一般財団法人

防府消化器病センター

消化器疾患を中心に
質の高い, 安全で, 温かみのある医療を提供し
予防医学, 研究事業を通して
地域社会に貢献します

肛門外科医師 日高 元 医師 着任挨拶

この度、防府胃腸病院の三浦院長に招聘頂き、同病院にて肛門科の専門外来を行うことになりました、日高元と申します。

これまで済生会福岡総合病院にて外科医として後期研修を終え、九州大学大学院消化器総合外科（第二外科）入局後、平成 26 年から約 2 年間、防府胃腸病院に勤務させて頂いたこともございます。

平成 28 年からは東京山手メディカルセンター大腸肛門科に勤務し、平成 30 年より福岡県久留米市にある日高大腸肛門クリニックにて、大腸をはじめとする消化器疾患や肛門疾患の診療を行っております。当クリニックでは年間約 5000 件の内視鏡検査と、約 600 例の肛門手術を行っております。普段我々が診療しているのは内視鏡検査、排便障害（便秘、便失禁等）や肛門疾患（痔核、痔瘻、直腸脱等）です。肛門疾患においては、患者さん

の自覚症状は出血、痛み、腫れ等、その感じ方も様々です。排便習慣は我々の日常生活とは切っても切り離せないものであるだけに、少しでも違和感があると不安を感じる方も多いと思います。その不安を少しでも和らぐのにお役に立てればと思

います。手術が必要なものからそうでないものまで、患者さん一人ひとりの症状と病態をしっかりと踏まえた上で、さまざまな治療法の中から最も適していると判断されるものを提案し、決定に際しては患者さんと十分な相談を行って参りたいと思います。

どんな些細なことでも構いませんのでぜひご相談下さい。お待ちしております。



Message from our Director

治療薬かワクチンか

病院長 三浦 修

日本国内で新型コロナウイルス感染症の治療薬として、5月に「レムデシビル」が特例で承認されていますが、これに引き続きデキサメサゾン（ステロイド薬）が正式に認定されました。今まで抗炎症薬として、日常診療でも多く使われてきた薬剤で、英国ではコロナウイルス重症感染者の死亡率を下げたとの報告もあり、今後重症者への有効性が期待されています。

日経新聞 1 面のコラム欄「春秋」にスーパーコンピューター富岳が、新型コロナウイルスの治療薬として、サナダムシの駆虫薬が効くかもしれないとの発見をしたとの記事がありました。コロナウイルスのたんぱく質に適合する物質を、無数の既存の薬剤の中から探し出したといえます。もちろん、臨床試験や実際の治療薬としての評価については、これからいくつものハードルを越える必要がありますが、朗報であることには間違いのないでしょう。

また、治療薬の開発と並行して、世界各国でワクチン製造が急速に進行しています。報道によると、米国、英国、中国、日本などでは、各国政府の援助のもと、民間企業や大学などが実用化に向けての最終試験の段階に入り、遅くとも来年春頃までには新型コロナウイルスワクチンが実用化されるといわれています。問題は、ワクチン接種しても体内で十分な抗体が出来なければ、感染時にウイルスの増殖がかえって加速されてしまう ADE（antibody-dependent enhancement、抗体依存性感染増強）現象などの危険性が増すことになり、ワクチンの有効性が大きな課題となります。

現在、大都市圏を中心に国内では、第 2 波ともいえるほど急速に感染者が増加しています。治療薬とワクチンを日常診療で自由に使うことができる日まで、市民として、また医療に従事する者として、感染防止のために何ができるか何をすべきか、もう一度原点に返って再確認する必要があります。



休診のお知らせ

8月14日（金）～8月15日（土）はお盆休みです。8月17日（月）から通常診療いたします。

AI 問診について

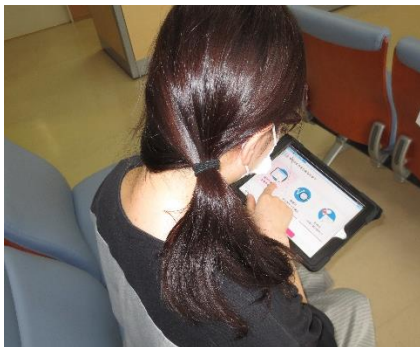
当院外来に今年4月にAI問診システムを導入して4ヶ月がたちました。AI問診は患者様がタブレット端末を使って、症状に合わせて選んだ質問に答えていただくもので、医師が患者様と向き合ってお話しする時間が確保しやすくなりました。外来初診にしっかり定着してきたAI問診の今の状況について、各部門から報告いたします。

診療情報管理室から

令和2年4月2日より、外来初診時の問診を従来の紙問診から、タブレットを使ったAI問診に変更しました。導入の目的として、医師・看護師の事務作業負担軽減、診療待ち時間の削減、診療記録の質向上が挙げられます。導入当初は、受付も不慣れで患者様にはご迷惑をおかけしたと思いますが、現在はスムーズなご案内ができています。患者様にもタブレット使用を受け入れていただき、初診患者様の、来院から診察までの時間は短縮できたと実感しています。さらに、診療記録は、医師の負担なく情報量が増え、統一、整理されたものになりました。診療情報管理室としては、このことが導入して最も有用であったと考えています。

医療事務課から

タブレット運用を行うにあたり、医療事務課の受付の流れを見直しました。流れを変えることにより、タブレット問診を行っていただいている間に保険診療等の基本情報の登録を行えますのでカルテ作成までの時間短縮となり数多くの患者様の対応が可能となりました。



タブレット操作に慣れられる方は、素早く対応されていますが、困惑されておられる方については、医療事務課職員と一緒に進めています。

看護師の視点から

当外来では、以前より診察前の予備問診を行っていましたが、AI問診の導入と同時に、専任問診スタッフの配置、各部署の役割を明確化、外来患者基本問診の刷新など業務改善にも取り組みました。これによりAI問診の有効活用と問診対象者の増加につながり、診療の流れがスムーズになったと感じています。

AI問診導入による利点を具体的に4点あげます。①患者様の筆記なしに受診目的・症状等が文字起こしされているため問診予測が容易にできる ②AIに代わり専任スタッフが問診を行い追記することで医療情報が増え、医師の業務負担軽減につながった ③検査に必要な事前問診も同時に行っているため、各部署で情報を共有でき確認が容易となった ④問診スタッフを増やし専任としたことで、多忙な

診察室スタッフの負担が軽減した。

今後の展望として、AI性能の向上と機能の充実はもちろんですが、それらを上手く活用し、外来から入院までの情報を一元化できるようなシステムを作り上げたいと考えています。



医師の視点から

医師にとって患者さんの問診は、診療上非常に重要な位置を占めます。いつからどのような症状が出て、どのように変化したのか、あるいは背景因子としてどのようなものがあって、現在の訴えとどう結びついているのか、その原因疾患を考える上で、腹部の病気に限っても最低5分から10分程度の時間を問診に費やすことになります。

AI問診は、タブレット端末上で患者さん自身が操作し、30程度の平易な質問に答えるだけで問診ができてしまうという優れもので、この情報をもとに医師言語に自動翻訳された文章が画面上に提示されます。それを必要に応じて医師が診療しながらわずかに手直し、あるいは追加して電子カルテに取り込むことができます。問診の内容から、AIは想定される疾患のリストを提示します。リスト内に適切な疾患がなければ新たに疾患名を追加すると、AIは自己学習もするようになります。また、紹介状や薬手帳などもスキャンすることで画像認識+自然言語処理を行い、テキストとして表示させることが可能となります。

また特記すべき点として、強い倦怠感や、呼吸苦、味覚・嗅覚障害などのCOVID-19を疑うような症状が回答された場合には、アラートが表示され院内感染の防止に役立つとしています。

医師にとっては毎日の多忙な診療の中で、AI問診システムを積極的に活用することで、正確で迅速な病状把握と鑑別診断へ導いてくれるだけでなく、患者さんと直接向き合う時間を数倍増やしてくれることになり、今後ますます診療の場で活躍してくれるものと思います。

このような取り組みを行い、診療の質の向上、患者様の満足度向上を目指し、日々努力しています。引き続き、ご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

外来診療予定表

	診察室	月	火	水	木	金	土
午前	1 診	藤原 9:00～	三浦	三浦	藤原 9:00～	三浦	交代制
	2 診						
	3 診	三浦	竹尾	竹尾	竹尾 9:00～		交代制
	5 診	生形	宮寄	生形	田口/好中 (交互)	生形	交代制
	6 診				宮寄		
	肛門外科					竹尾	
午後	1 診	生形(※1)	休診	宮寄(※1)	休診	休診	休診
	肛門外科	竹尾(再診)	休診	休診	休診	日高(※2)	休診
	診療日時			受付時間		診療時間	
	平日	午前		8 : 0 0 ～ 1 1 : 0 0		8 : 3 0 ～	
		午後 (月・水)		1 3 : 3 0 ～ 1 6 : 3 0		1 4 : 0 0 ～	
	土曜日	午前		8 : 0 0 ～ 1 1 : 0 0		8 : 3 0 ～	

※1 都合により代診になる場合があります。

※2 肛門外科：午後は手術等が中心となりますので、外来受診については当日お問い合わせください。

土曜日の診療に関しましては、交代制となっております。土曜日の診療予定は受付前に掲示しております。

出張等で担当医が不在の場合もございますので、受付またはお電話にてお問い合わせください。

担当医が不在の場合は代替りの医師にて診療を行います。

Access



一般財団法人 防府消化器病センター

山口県防府市駅南町 14-33

TEL: 0835-22-3339 (代表)

H P: <https://www.hofu-icho.or.jp>



■交通機関のご案内

【電車】JR 防府駅よりバス2分(防府市役所前下車)

またはJR 防府駅より徒歩10分

【バス】防府市役所前下車

【お車】山陽自動車道 防府東もしくは防府西インターから10分

Editorial Note

8 月前ぎりぎり梅雨も明け、熱い、ある意味初めての夏がやってきます。人類の永い歴史の中で夏に「疫病」が蔓延したこともあるかとは思いますが、少なくともかつ半世紀を過ぎた若輩者の私には初めての経験です。最終的に感染が成立するルート=口・目・鼻から身体に入るルートを絶対に断つ、という観点と、周りの誰がウイルスを持っていたとしても自分には入れない、そして一見健康であるはずの自分を含め、すでにまき散らしている可能性を常に考える、これに尽きます。皆で With コロナを乗り切って参りましょう。院内感染管理者栗林左知